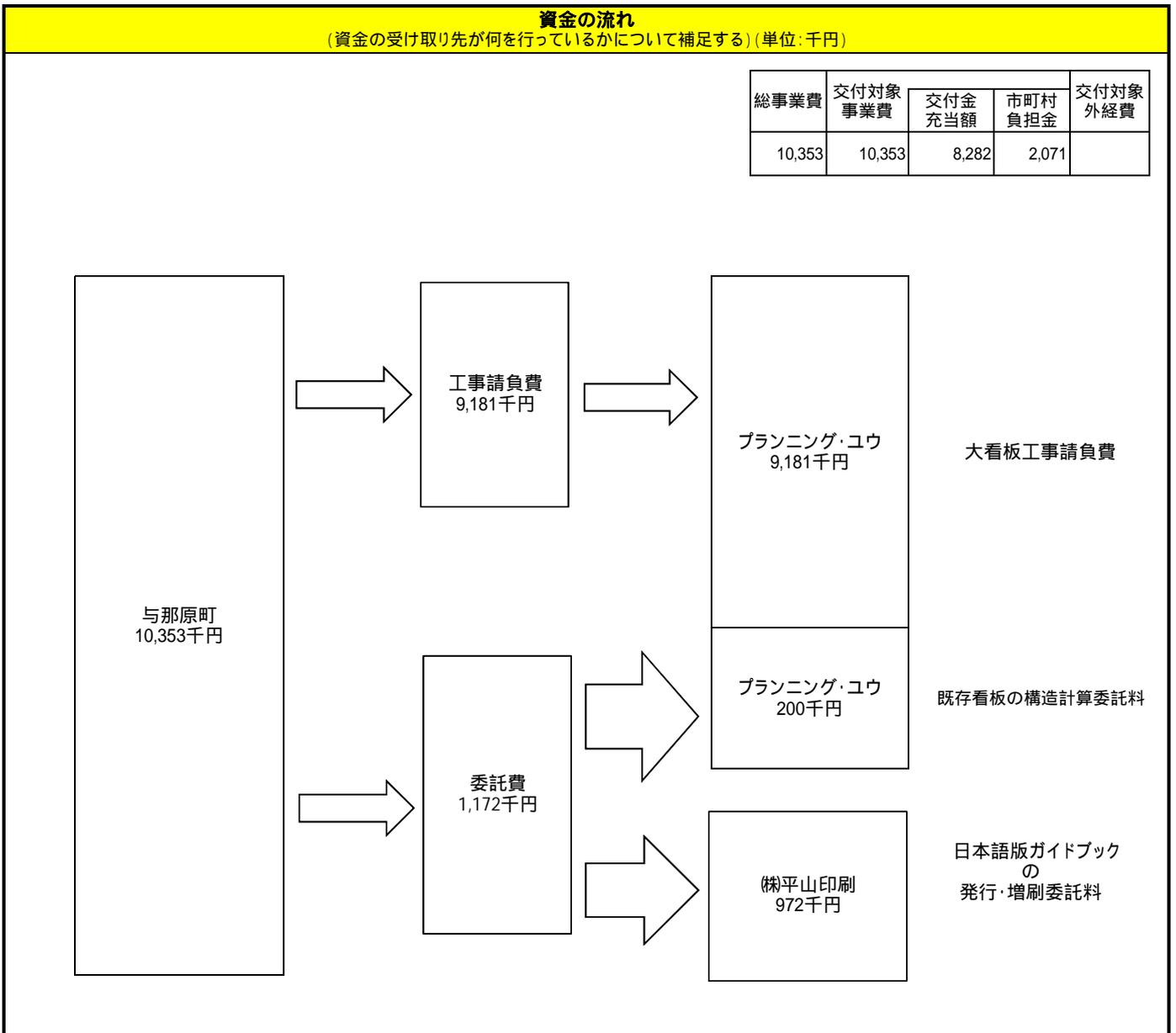


市町村名		与那原町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	歴史・文化を活かした観光振興事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課(旧産業振興課)	事業実施(予定)年度	平成24年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	与那原大綱曳をPRするための大綱曳大看板設置や町内への多言語案内板の設置、山原船活用推進に向けた委託等を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	29,920	-			
		(b)予算現額	29,920	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	14,920			
		A.計(b+d)	29,920	14,920			
	B.執行済額	0	10,353				
	うち交付金充当額	0	8,282				
	次年度繰越額	14,920					
	執行率(%) (B/A)	0.0%	69.4%				
予算の状況の説明	<p>・不要額が1,539千円発生しているが、工事費の入札残によるものである。</p> <p>・繰越した事由として、既存の看板を使用する予定であったが、その既存看板の強度等を確認する資料がなく、その状況で工事を引き受ける業者を選定するのに期間を要したため。</p> <p>・ガイドブックについては、当初多言語版(英語・簡体語・繁体語・韓国語)を作成予定であったが、元となる日本語版の内容修正に時間を要し、多言語版の発行まで至らなかった。その為、当初予算より大幅減額となっている。</p> <p>・多言語案内板については、他の補助事業にて実施できることとなったため、本事業では実施できないと判断し執行していない。</p> <p>・山原船改修については委託先との委託内容調整後、人工確保に難航し、また、他に受託可能な技術保持者を有する造船業者もなく、年度内での事業遂行が困難となったため取り下げたため、15,000となっている。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	大看板設置1ヶ所	目標	(大看板設置1ヶ所)	()	()	()	
		実績	大看板設置1ヶ所				
	観光ガイドブック発行2万部	目標	(2万部)	()	()	()	
		実績	2万9千部				
	山原船改修	目標	(山原船改修)	()	()	()	
実績		取り下げ					
達成状況説明	<p>大看板設置1ヶ所完了の繰越理由については既存の看板を使用する予定であったが、その既存看板の強度等を確認する資料がなく、その状況で工事を引き受ける業者を選定するのに期間を要したため。</p> <p>24年度は14,000部を発行し、町内事業者、県内の観光協会、観光関連施設、道の駅、イベント等で配布した。部数を配布後、25年度にさらに内容に修正を加え、15,000部を発行した。多言語版(英語・簡体語・繁体語・韓国語)に関しては、日本語版の内容修正に時間を要した為、発行までに至らなかった。</p> <p>委託先との委託内容調整後、人工確保に難航し、また、他に受託可能な技術保持者を有する造船業者もなく、年度内での事業遂行が困難となったため取り下げた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(24年度)
	大看板設置1ヶ所	目標	()	(大看板設置1ヶ所)	()	()	(大看板設置1ヶ所)
		実績		大看板設置1ヶ所			
	観光ガイドブック発行2万部	目標	()	(2万部)	()	()	(2万部)
		実績		2万9千部			
	山原船改修	目標	()	(山原船改修)	()	()	(山原船改修)
		実績		取り下げ			
進捗状況説明	大看板設置1ヶ所完了 観光ガイドブックを29,000部発行した。今後は掲載店舗へ人が流れるような仕組み作りをより一層進めていく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 大看板については大通りからも確認できる大きさでPR力も十分ではあるが、まつりの日付等の修正もあるので、定期的な看板面の変更が必要となる。 日本語版の修正・変更期間を要した為、翻訳までの期間が短く多言語版の発行に至らなかった。また、当初の段階で多言語版ガイドブックの必要性についてさらに議論を深める必要があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 看板面の褪色等もあるので、定期的なメンテナンスと看板面を変更していく必要がある。 多言語版においては、想定配布先・活用法を含めてさらなる検討が必要。また、翻訳に期間を要することを念頭に、余裕をもった発行計画を立てる必要がある。
今後の取り組み方針		
	<ul style="list-style-type: none"> 大看板設置は完了しているので、今後は定期的に看板版面を差し替えたりするなど、まつりPRを継続し、さらにスポンサー枠を設けてあるので、そこでの収入で維持費を捻出していく予定。 今後は完成した日本語版ガイドブックを有効的に活用し町のPR、観光客誘致につなげていく。多言語版の必要性については再度検討する必要がある。 	



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定については指名型プロポーザルを実施し選定しているため妥当であり、用途・予算規模についても必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	聞得大君「御新下り」と「与那原街道」復元・周辺整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	教育委員会 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化産業の戦略的な創出・育成 -1-(1)	
事業内容	歴史、文化を活かした観光資源の確立と聞得大君をキーワードに御殿山を起点にした一体感を持った「史跡散策コース」を設定し、集客力の強化と、需要を見越したガイドボランティア団体の結成と育成の実施、周辺整備による安心安全な観光地を目指す。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,180				
		(b)予算現額	16,180				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-	15,225			
		A.計(b+d)	16,180	15,225			
	B.執行済額	0	15,225				
	うち交付金充当額	0	12,180				
	次年度繰越額	15,225	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%				
予算の状況の説明	平成24年12月に事業契約をし事業を進めたが、調査を進めていく上で文献、資料等が少なく収集作業に不測の時間を要したため、平成25年3月時点で事業を終えることができませんでした。よって、委託料の全額を平成25年度に繰越し事業を推進しました。(24年度支払はなし)						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	史跡散策コースの復元・再現調査の実施	目標	(復元・再現調査の実施)	()	()	()	
		実績	復元・再現調査の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成24年度は史跡の現状調査を実施し、史跡周辺の資源調査、景観性のチェック等を行った。平成25年度は周辺住民に対して史跡で行われる(た)祭祀・芸能、史跡に関する民話、言い伝え等の聞き取り調査を行った。また、文化遺産について、史料、学術調査報告書、文化財台帳等の整理を行い、資料ごと、実施された調査ごとの情報を一元化して文化財リストを作成して整備構想報告書としてまとめた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	史跡散策コースの復元・再現調査の実施	目標	()	(復元・再現調査の実施)	()	()	()
		実績		復元・再現調査の実施			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	調査の実施にあたっては自治会長や町史編集委員などの協力のもと聞き取り調査を行った。また、整備後の史跡や歴史の道の管理運営への住民参画や計画・整備段階から住民の意見を反映させる目的として3回のワークショップを実施し、事業後半においては事業参画への機運を高める目的としてシンポジウムとパネルディスカッションを開催した。ワークショップで出た意見等は整備構想報告書においてまとめてあり、今後の整備に向けての参考とする。					

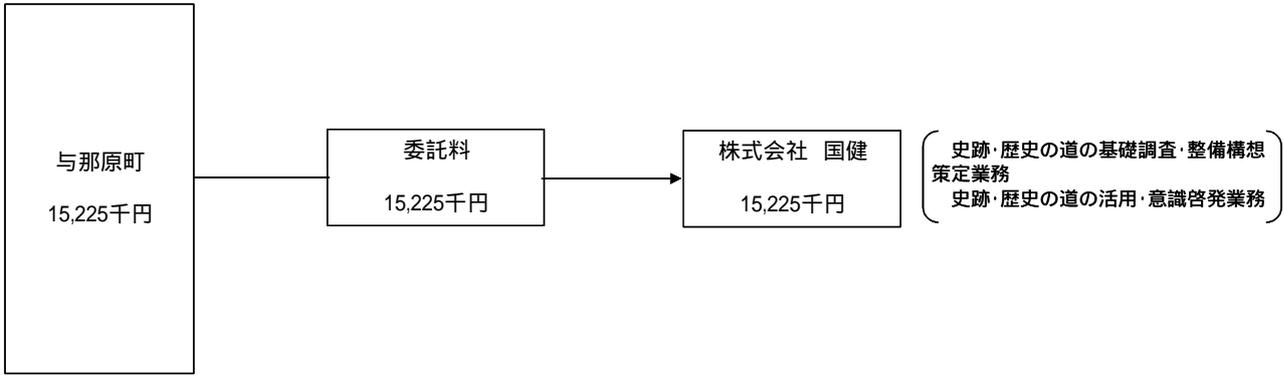
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各史跡の整備・復元方針、活用・連携の方向性を決めることが必要である。また、文化財と景観が連携した保全策を展開することが必要であり、文化財周辺にふさわしい景観形成、文化財からの眺望保全、沿道景観の形成、斜面緑地等を考慮しながら、与那原らしい文化的景観を形成する。	各史跡が歴史の道で結ばれ周辺地域に波及効果を及ぼすような整備イメージを描く必要があり、住民意向や先進事例等を踏まえ、各史跡の整備像、活用のアイデアを整理する。 文化遺産の維持管理に関しては地域が担うべきで、そのためには文化遺産と地域住民とのつながりを取り戻し、自分たちで保存・活用していく自立した仕組みを形成しなければならない。地域の任意団体やNPO等の地域人材を整理し、また行政との役割分担の在り方を検討するなど、実行可能な文化財管理法を見出す。

今後の取り組み方針

平成26年度は整備構想報告書を基に住民参加型の検討委員会を開催し、史跡整備に向けての検討・会議を行う。町長が検討委員会に諮問し、検討した内容を町長へ答申する。年度末には答申の内容を有識者や公募で集まった住民において整備検討委員会を設置して検討を行い、平成27年度に予定している史跡の設計・史跡周辺整備設計に反映させ事業を推進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,225	15,225	12,180	3,045	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものと判断でき、適正である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1 -	与那原の伝統・文化・言語(方言)を活かした紙芝居等作成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造 -1-(1)		
事業内容	方言標識を設置し、観光マップとリンクさせた町内散策ルートを整備する。大綱曳や与那原かるた、与那原こたばテキストを活用し伝統文化の紹介、継承者育成、イベントの開催を行う。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度		24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
		(a)当初予算額	11,412					
		(b)予算現額	11,412					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-	10,659				
		A.計(b+d)	11,412	10,659				
		B.執行済額	0	10,659				
		うち交付金充当額	0	8,527				
		次年度繰越額	10,659	0				
		執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%				
予算の状況の説明		平成24年度は事業内容の検討と見直しに時間を要してしまい事業執行ができなかった為、委託料の全額を平成25年度に繰越した。(24年度支払はなし)						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
	紙芝居、かるた、テキストの編纂の作成	目標	紙芝居の作成 (かるたの作成 テキストの編纂)	()	()	()	()	
		実績	紙芝居の作成 5話作成(20セット)紙媒体とデジタル媒体を作成 かるたの作成 20セット作成 テキストの編纂 5話編纂のものしりブック作成(1,000部)紙媒体とデジタル媒体を作成					
	方言標識の作成	目標	(方言標識の作成)	()	()	()	()	
		実績	方言標識は作成していない					
	達成状況説明	紙芝居は与那原町に特化した全5話を文献資料を基に、5人の編集委員が各民話を再構成し紙媒体とデジタル媒体(デジタル媒体においては標準語と方言バージョンで聞くことができる。)の2種類を作成した。「与那原かるた」は与那原中学校63期卒業生が授業で作成したかるたを基に編集委員・教育委員会で修正・編集し、今回新たに「しまくとぅば」バージョンを付け加えて、1つのかるたで標準語バージョン・しまくとぅばバージョンの2種類を楽しめるように作成した。「与那原ものしりブック」に関しては、与那原を県内外にアピールする目的で、現代の与那原、与那原の歴史、与那原大綱曳、戦争の4テーマから全60問を出題し、3択形式で誰もが楽しめるように工夫した。「与那原ものしりブック」も紙媒体とデジタル媒体の2種類を作成した。紙芝居と与那原ものしりブックのデジタル媒体は本町HPに掲載しており、いつでも閲覧できる。観光マップとリンクした町内散策ルートを整備し、方言標識を設置する予定でしたが、現在、整備中や整備計画で事業が進捗していないものがあり、方言標識の設置は時期尚早と判断し、設置は行っていない。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)	
	観光マップとのリンクした散策コースの設定	目標	()	(散策コースの設定)			()	
		実績			散策コースの設定は行っていない			
	伝統・文化・方言を活かしたコンテンツ数:3種類	目標	()	(伝統・文化・方言を活かしたコンテンツ)	()	()	()	(作成した紙芝居・かるた・ものしりブックを活用し事業を推進する)
		実績			紙芝居5話作成 与那原かるた作成 与那原ものしりブック作成 紙芝居よみかせイベント実施 紙芝居ものしりブックのデジタルコンテンツ作成			
	進捗状況説明	紙芝居(5話)、与那原ものしりブック、与那原かるたを作成するにあたり、与那原町文化協会や町史編集委員の中から5名の委員を選出し、構成や監修をして頂きました。また、完成した紙芝居やものしりブック、かるたを町民に広く浸透させるために、紙芝居5話の中から1話を選択し、紙芝居の読み聞かせと舞台(紙芝居の中から3つのシーンを選択し演じる)で3つのシーンを表現して会場に集まった町民に対し紙芝居等の完成をアピールすることができました。今回の事業の中で方言標識を設置する予定でしたが、現在、整備中や整備計画で事業が進捗していないものがあり、方言標識の設置は時期尚早と判断した為、散策コースの設定も行っていない。						

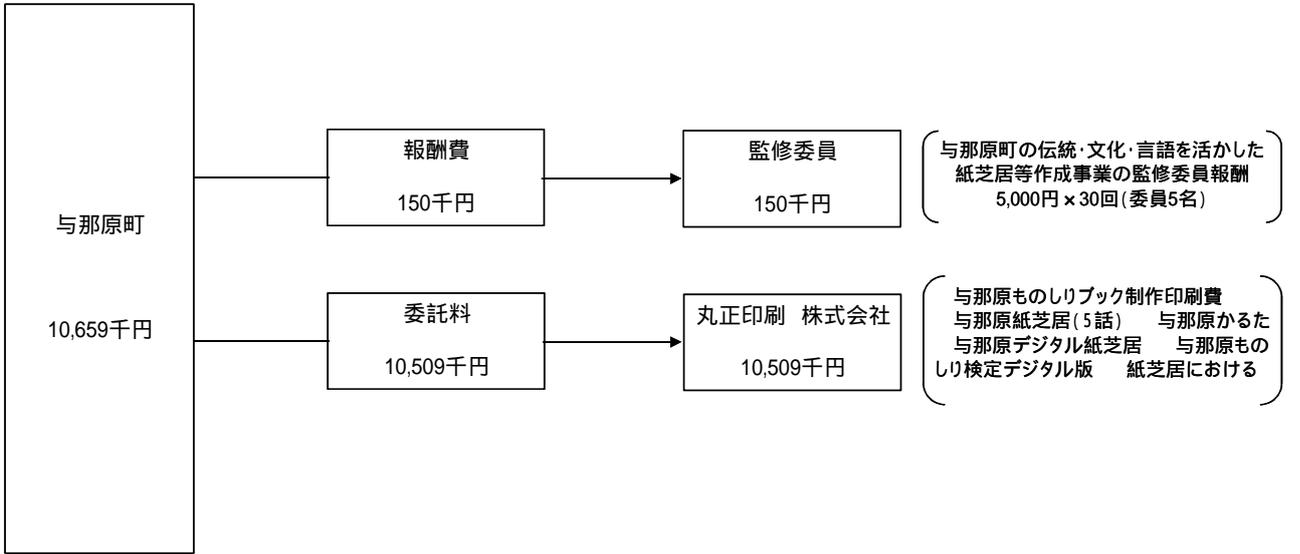
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	町内認可保育園、町立幼稚園、小学校、中学校に「紙芝居5話」・「与那原かるた」・「与那原ものしりブック」を配布したが、配布だけでなく、今後の活用方法や「しまくとぅば」での紙芝居の読み聞かせなどの指導を積極的に行いたい。	「与那原ものしりブック」は今回、初級編という形で作成しているため、今後、上級編等の作成を行い、最終的には「与那原検定」のようなイベントを開催し、「与那原名人(仮称)」を数多く育てていきたい。 「与那原の民話」には今回作成された5話以外にも多くの民話が掲載されているため、今後も第2弾・第3弾と紙芝居作成を行いたい。また、沖縄戦を後世に伝えるための紙芝居作成も検討したい。

今後の取り組み方針

町内認可保育園、町立幼稚園、小学校、中学校に「紙芝居5話」・「与那原かるた」・「与那原ものしりブック」を配布している為、授業や各種イベント等で積極的な活用を推進したい。
 正月や成人式のイベントを利用して「与那原かるた」大会等のイベントを開催しかるたの活用、与那原の特産品・伝統行事、偉人・名所などのアピールを町内に発信していきたい。
 「与那原ものしりブック」を活用し町内の児童生徒や町内外の方に「与那原を知る」きっかけになってもらいたい。また、NPO法人等にも積極的に働きかけ、「まちまーい」や「民泊」においても積極的活用して頂くようアピールしていきたい。
 「散策コース」の整備に関しましては、本課の文化財施設整備やまちづくり課が進めている、石張り(石灰岩による)による道路の整備が終了した後に「散策コース」を選定し、設置していきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
10,659	10,659	8,527	2,132	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものと判断でき、適正である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	歴史資料館(仮称)整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ	
担当部課名	教育委員会 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造 -1-(1)	
事業内容	県内外問わず積極的に収集した網曳(引き)に関するアーカイブ機能を確立させ、網曳、民族、戦争遺品等の平和資料を展示した「歴史資料館(仮称)」の建設検討調査を行い、新たな観光ニーズに十分な対応のできる歴史資料の拠点建設を目指す。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,064				
		(b)予算現額	6,064				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-	4,712			
		A.計(b+d)	6,064	4,712			
	B.執行済額	0	4,712				
	うち交付金充当額	0	3,769				
	次年度繰越額	4,712	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%				
予算の状況の説明	平成24年度は事業内容の検討と見直しに時間を要してしまい事業執行ができなかった為、委託料の全額を平成25年度に繰越した。(24年度支払はなし)						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	建設可能性調査	目標	(可能性調査の実施)	()	()	()	()
		実績	可能性調査の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	与那原町史、歴史、伝統におけるアーカイブ機能の確立と情報の発信拠点施設の整備を目的として、「網曳」「民俗」「平和」を集約した「与那原町歴史資料館(仮称)」整備に向け、町民の皆様から寄贈された貴重な資料や物、現在、資料館に展示されている資料等の整理・データ化を行い、歴史資料館建設に向けて現存する資料の把握と調査報告書を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	建設可能性調査の実施	目標	()	(調査の実施)	()	()	(歴史資料館の完成を目指す。)
		実績		調査の実施			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	委託前に見積りをした資料数800点を大きく上回る数の1,000点余りの資料が貯蔵されていることが調査によりわかりました。調査において整理・データ化された資料と調査報告書により本町における大まかな建設適正規模が把握できたため、「与那原町歴史資料館(仮称)」の立地場所の検討、設計、展示構成等を行い、資料館建設に向けて事業を推進したい。					

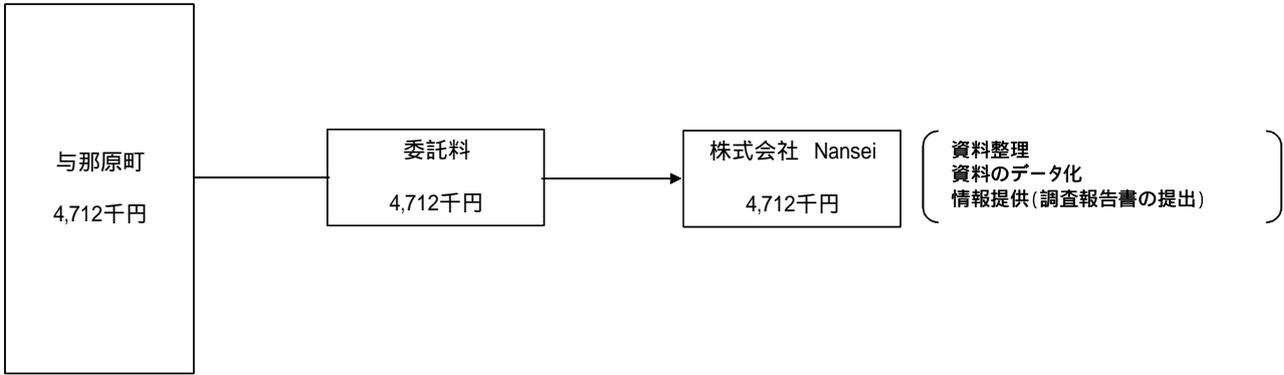
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	歴史資料館の施設構成・外観イメージ、立地場所等に関しては調査報告書の中で情報提供されているが、広く町民の意見を反映させるために必要に応じて有識者や町民の方を公募し、「与那原町歴史資料館(仮称)」整備に向け検討委員会を立ち上げて事業推進を行う。	今回の事業で資料整理と資料のデータ化を行い、調査報告書をまとめた。今後は「与那原町歴史資料館(仮称)」を建設した後の展示項目ごとに、この資料をさらに大分類・中分類に分けて整理する必要がある。分類後は施設規模・展示の構成を検討し、整理・収集した貴重な書類・文献、物品などを常設展示できるようにする。また、常設展示とは別に行事に合わせて企画展を開催し、より多くの町民に歴史・文化・伝統を伝え、発信できる場所として確立したい。

今後の取り組み方針

歴史資料館(仮称)建設に向け庁舎内で検討委員会を立ち上げ、建設に向けての調査・検討を行う。
立地場所の検討を行う(現在の資料館を増改築するか・別の場所で新築するか・空き店舗を利用するかも含めて)
施設の機能と構成、外観イメージについて基本的な考えをまとめる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,712	4,712	3,769	943	



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものと判断でき、適正である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	東浜水路活用調査及び与那原町観光計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	企画観光課	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	沖縄県及び与那原町の観光に関する資料のとりまとめと観光計画の策定及び東浜水路の活用調査に関するワークショップの開催を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,638	-			
		(b)予算現額	18,638	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	18,638			
		A.計(b+d)	18,638	18,638			
	B.執行済額	0	18,617				
	うち交付金充当額	0	14,893				
	次年度繰越額	18,638					
	執行率(%) (B/A)	0.0%	99.9%				
予算の状況の説明	調査範囲等の設定にあたり、有識者から水路の水質調査も併せて行うように意見があり、その調整に不測の日数を要し平成25年度へ繰り越した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	与那原町観光計画の策定	目標	(与那原町観光計画の策定)	()	()	()	()
		実績	与那原町観光計画策定				
	与那原町東浜水路活用調査の実施	目標	(与那原町東浜水路活用調査の実施)	()	()	()	()
		実績	与那原町東浜水路活用調査の実施				
達成状況説明	観光に関する資料のとりまとめ及びワークショップ意見の取りまとめを行うとともに、水路の水質、流行等の調査及び水質浄化手法の検討を行い、水路を活用した観光メニューを含めた与那原町観光計画としてまとめた。また、ワークショップに「まち歩きガイド」「民泊」の当事者が参加したことにより、町のみでの観光振興では限界があり、双方が協力して行くことで本町の観光振興につながる意識付けができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(35年度)
	観光計画の策定	目標	(観光計画の策定)	(観光計画の策定)	()	()	(入城者数90,000人)
		実績		観光計画の策定			
	観光メニュー創出 10プログラム	目標	(観光メニュー案創出 10プログラム)	(観光メニュー案創出 10プログラム)	()	()	()
		実績		37施策(プログラム)策定			
	進捗状況説明	当初、観光計画に個別事業まで記載し実施計画を含めた内容とする予定であったが、今後の事業展開を考慮し水路を活用した施策を含む観光メニューについて37施策(プログラム)を挙げつつも、年次的な実施計画等については別途作成することとした。					

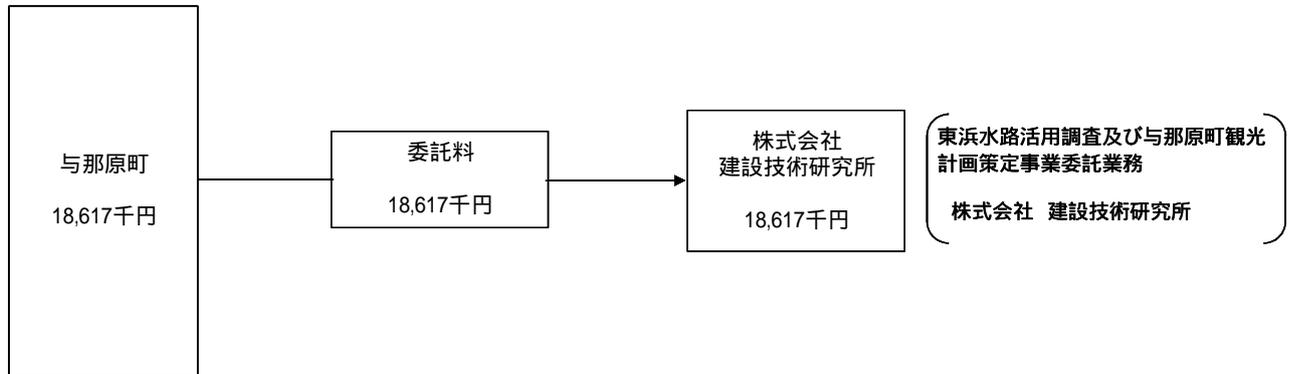
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各所の史跡や伝統文化などの観光資源について、観光資源としての位置づけはあるものの具体的な整備計画や観光資源としての展開計画がなく、整備がなされないものが多い。 ・商店街や事業者においても観光を事業に結びつける意識はあるものの、自ら観光関連事業を展開するまでに至っていない。 ・ワークショップにガイド認定者や町商工会会員が参加したことから、観光関連施策を実施する当事者であるとの認識を新たにしてもらうことに主眼を置きつつ、町の実施する史跡整備や観光に関連する施策について今後の展開を議論した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光計画に基づく個別事業に対する実施計画の策定を行い、観光資源の整備を進める必要がある。 ・旅行社や観光を専門とする大学関係者などの意見を取り入れる機会を設け実施計画に反映する必要がある。

今後の取り組み方針

策定した観光計画を基に、町の実施する各施策と観光に特化した施策とを結び付け、効率的に事業展開が行えるよう関係課並びに町商工会などと連携し個別事業について協議し、平成26年度より実施計画を作成し、年次的に事業の展開を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,617	18,617	14,893	3,724	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識、実施方針等を勘案した上で選定し、妥当であったと考える。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	交流施設駐車場整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	レンタカーを利用する観光客が本町を訪れ、自由に散策できるよう駐車場の整備を行い、観光客が史跡巡りや街中の散策がしやすい環境を整備する。また、同駐車場を災害時における観光客の一次避難場として、釜場や仮設テント及び仮設トイレの設置可能な駐車場を整備する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		50,000	-			
			50,000	-			
			0	-			
			-	49,107			
			50,000	49,107			
		B.執行済額	893	49,098			
		うち交付金充当額	714	24,281			
		次年度繰越額	49,107	0			
		執行率(%) (B/A)	1.8%	100.0%			
	予算の状況の説明	・H24年度に詳細設計を完了したが、工事に関しては、H24年度内発注が行えず、繰越となった。不要額が9千円発生しているが、工事請負費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	交流施設駐車場の実施設計・工事	目標	(実施設計・工事)	()	()	()	
		実績	実施設計・工事				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・本年度事業にて54台の駐車スペースを整備した。 ・夜間の利用を考慮し照明施設の設置や、花々の植栽が可能な花壇の設置を行い景観にも配慮した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(25年度)
	交流施設駐車場の整備着手	目標	()	(54台)	()	()	(77台)
		実績		54台			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・レンタカーを利用する観光客が本町を訪れ、自由に散策できるよう駐車場の整備を行い、観光客が史跡巡りや街中の散策がしやすい環境を整備した。また、軽便市等のイベント時や、町民による公園レク等開催時には、駐車場として活用され、本町を訪れる来訪者の増加に貢献している。 ・同駐車場を災害時における観光客の一次避難場として、炊き出しが可能なかまどベンチを2基、また、5基の仮設トイレが設置可能な汚水柵を埋設した。					

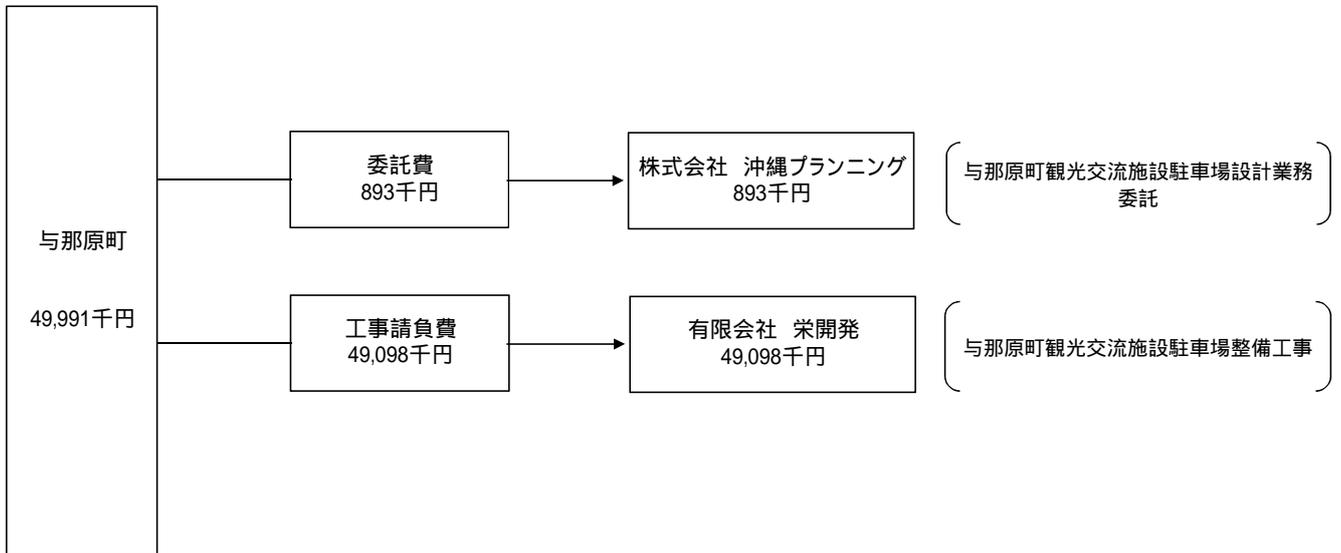
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本駐車場は、レンタカーを利用する観光客が本町を訪れ、自由に散策できるよう駐車場の整備を行い、観光客が史跡巡りや街中の散策がしやすい環境を整えるものである。よって、最大限に活用されるような方策が必要になる。	本駐車場が最大限に利活用されるように、関係機関と連携し、周辺の観光スポットの魅力ある整備及び観光振興のイベント等のソフト事業の創出に努める。

今後の取り組み方針

観光客にやさしいまちづくりや災害時に効果を最大限に発揮できる様、適切な維持管理及び観光客等が気持ちよく利用できるように、花々を植栽する等の配慮を行う。また、周辺の観光スポットの魅力ある整備及び観光振興のイベント等のソフト事業の実施を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,991	49,991	24,995	24,996	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	契約業者については、指名競争入札により決定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	来訪者と町民の交流施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課	事業実施(予定)年度	平成24~27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	本町が取り組む新たな観光資源創出の一環として、来訪者と町民が親睦を深める交流会等の開催が可能な施設を整備することで、将来のリーダーを生み出し持続可能な観光振興を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	50,750	-			
		(b)予算現額	50,750	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	50,000			
		A.計(b+d)	50,410	50,000			
	B.執行済額		410	50,000			
	うち交付金充当額		328	25,564			
	次年度繰越額		50,000	0			
	執行率(%) (B/A)		0.8%	100.0%			
予算の状況の説明		平成24年度において、基本・実施設計を予定していたが、施設検討委員会において、施設規模・内容及び住民アンケートからの要望等の調整に不足の日数を要し、繰越事業となった。平成25年度において委託業務を完了している。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	基本・実施設計の実施	目標	(基本・実施設計の策定)	()	()	()	
		実績	基本・実施設計の策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	今回の基本・実施設計委託業務において、施設検討委員会と立ち上げ、観光交流・体育運動・防災避難機能等を持ち合わせた、いつでも気軽に町民が利用可能な複合的施設の検討を行った。観光交流機能として伝統芸能のイベントを目的とした舞台施設や、体育運動機能として健康推進の為にトレーニング室・ランニングコース・アリーナの設置、防災避難機能としての自家発電・備蓄倉庫・太陽光発電等の設置を組み込み、実施設計に反映している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	与那原町観光交流施設の基本・実施設計の実施	目標	()	(基本・実施設計の策定)	()	()	(運用開始)
		実績		基本・実施設計の策定			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	委託業務の成果として、基本設計報告書・実施設計書等を取りまとめた。成果を受け、平成25年度末から平成26年度において、建築・電気・設備等の工事発注を行い、年度末に建物及び外構工事の完成を目指す。また、次年度において備品整備・運用面を整備し、10月末において運用開始を予定している。					

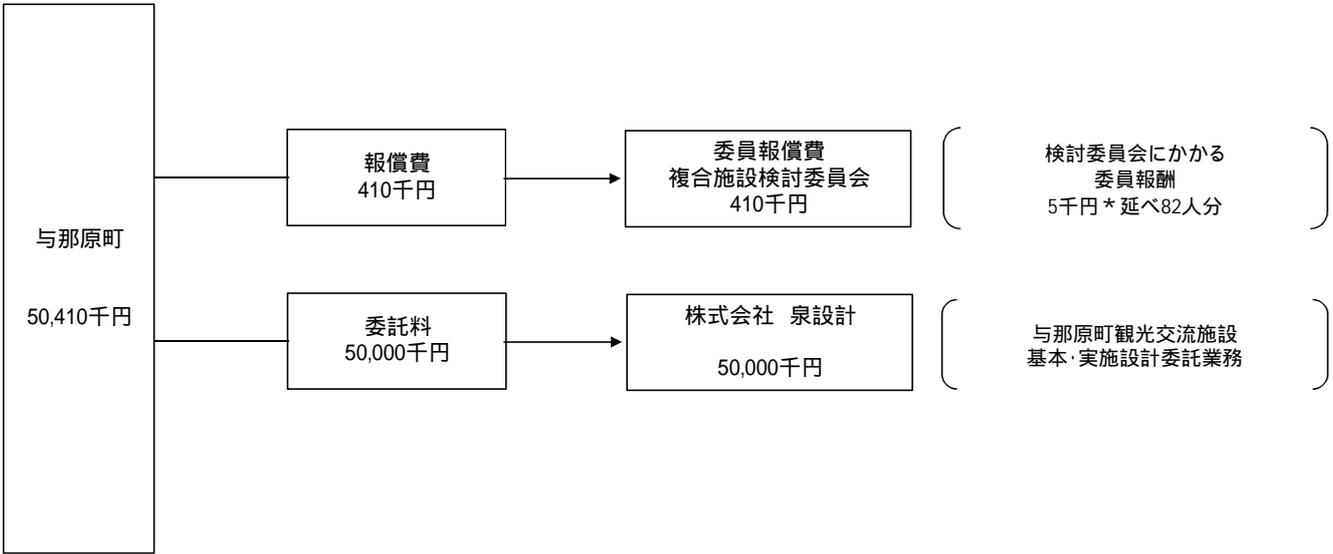
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	基本・実施設計委託業務を進めていく中で、複合施設完成後の維持管理費の低減化が課題となった。検討事項として、光熱水費(電気・上下水道・ガス料)を押さえるため、空調機器の選定・電灯設備のLED化・雨水の再利用化を行った。また、太陽光発電設備の余剰売電から全量売電への見直しを行っている。	基本設計・実施設計段階において、イニシャル・ランニングコストの検討を実施した点については、良かったと思われる。しかし、複合施設の運用開始後の利用形態の検討が弱く明確(運営方法・備品)になっていない。H24.25年度の同時期において、早めの検討が必要であった。
	しかし、委託業務の中でイニシャルコスト・光熱水費のランニングコストの検討については詳細におこなっているが、完成後の観光交流・体育運動・防災機能の目的を満たすための、備品導入計画や運用計画等が明確にされておらず、今後の課題となっている。	

今後の取り組み方針

- H25年度末・26年度において、工事発注となるため、早めの設計書作成・入札準備を行う。また、受注業者が工期遵守できるよう、設計監理・発注者共に協力し進める。
- 複合施設の各室における目的にあった、必要備品を検討する。リストを作成し精査、予算計上を行う。
- 施設利用に向けた運用計画(管理主体の選定・施設利用料金・要項等)の作成。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
50,410	50,410	25,892	24,518	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	検討委員会の委員選定にあたっては、学識経験者及び観光、防災、体育関係に見識を有する者等により行っており、意見・検討についても論議を重ね適切であったと考える。 委託業務の業者選定については、指名競争入札にて実施しており、妥当だと考える。 事業目的に即した、費目・使途となっており、委託料においても、精算基準に沿った予算額となっている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

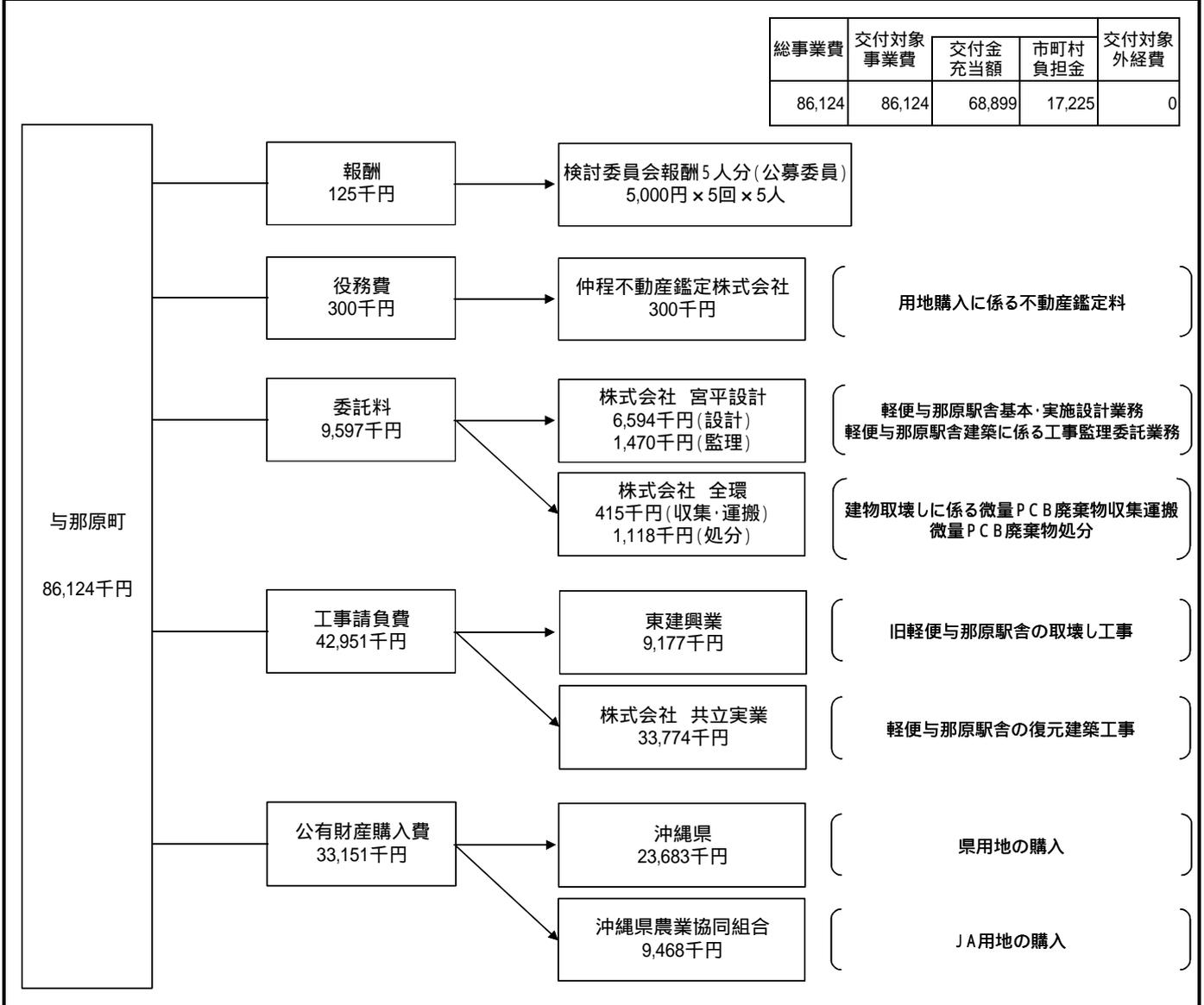
市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3	軽便鉄道与那原駅跡公園整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課 (まちづくり課・旧企画財政課)	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	太平洋で破壊された軽便鉄道の与那原駅跡の用地を購入し、軽便鉄道の説明板やモニュメントを設置し、与那原町の新しい観光スポットとして公園及び道路の整備を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	86,125				
		(b)予算現額	86,125				
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	52,673			
	A.計(b+d)		86,125	52,673			
	B.執行済額		33,452	52,673			
	うち交付金充当額		26,761	42,138			
	次年度繰越額		52,673				
	執行率(%) (B/A)		38.8%	100.0%			
予算の状況の説明		平成24年度当初は復元ではなく、公園として整備し、モニュメント及び説明板のみの設置であったが、町民から保存をすべきであるとの声があったため、その検討に時間を要してしまい、用地購入しか執行できなかった。その為、繰越額が大きくなってしまった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
	軽便鉄道与那原駅跡公園の整備 ・不動産鑑定 ・用地取得 ・公園設計、道路設計 ・工事	目標	24年度	25年度	26年度	27年度	
		実績	・不動産鑑定・用地取得 ・公園設計、道路設計 ・工事	()	()	()	()
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	達成状況説明	活動目標については目標を達成している。公園整備については、旧建物が軽便の歴史を知る上でも重要であることから、検討委員会の答申を受け駅舎の復元建築工事を実施している。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	軽便鉄道与那原駅跡公園の整備着手	目標	(整備なし)	(整備事業の着手)	()	()	(運用開始)
		実績		整備事業へ着手し駅舎が完成			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	駅舎完成が新聞、テレビ等で県内へ発信されたことにより、与那原町の新たな魅力として発信できたと考えている。今後は外構整備、内部整備を実施し平成26年度中にオープンを目指して事業を進めていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	旧建物は沖縄県営鉄道与那原駅で利用していた建物の一部を利用していたこともあり、軽便鉄道の歴史的に重要な場所である事に鑑み、有識者や公募の町民を含めた検討委員会を立ち上げ整備の内容を検討した結果、整備の内容を駅舎復元することに決定した。しかし、議会への予算説明時には復元の説明をしていなかった為、議会の理解を得るのに時間がかかってしまい、事業執行までに時間がかかってしまった。	当初の計画段階から議会及び住民の皆様との意見交換を実施し、納得を得た形でしっかりとした事業計画の策定が必要である。 その為、平成26年度計画については、9月頃から庁内で議論をはじめ、内容が精査された計画書に基づいた予算計上をすることとしている。

今後の取り組み方針

平成26年度については、内部の展示室整備及び外構の整備、用地の取得を行う。その円滑な実施を図る為、進捗状況に応じて住民及び議会への説明を行い、今後の事業施工内容に反映させていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	設計委託及び工事については指名競争入札を行っており、金額が少額による随意契約についても見積書等による契約となっており適正である。また、入札時には公共単価による予定価格を設定しており予算規模についても適正である。 工事監理費については、設計者と随意契約にした方が有利と判断し、随意契約にしている。 不動産の購入についても、購入前に不動産鑑定を委託しており、適正価格で購入している。このように、事業に必要な支出であり、規模に関しても、比較検討をしているため適正である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 -3-(1)	
事業内容	将来を担う児童生徒の学力向上及び人材育成を図る為、デジタル教科書の充実、ソフトを利用するデジタルテレビ、電子黒板等を整備する。また、各教職員や情報教育支援員が、ICTを活用した、きめ細かな教育が支援できるよう人材配置を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,395	-			
		(b)予算現額	11,986	-			
		(c)増減額(b-a)	591	-			
		(d)繰越額	-	9,173			
	A.計(b+d)		11,986	9,173			
	B.執行済額		2,812	8,228			
	うち交付金充当額		2,249	6,582			
	次年度繰越額		9,173	0			
	執行率(%) (B/A)		23.5%	89.7%			
予算の状況の説明		当初、情報教育支援員の配置のみによる事業推進を計画していたが、各小中学校において、電子黒板・デジタル教科書の必要性・利便性の確認をする為に、教職員を対象に機器活用のプレゼンや実態調査を実施した。その結果、機器選定・必要台数の精査に時間を要した為、機器等の購入の為補正となり、年度内での購入が出来ず繰越となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	情報教育支援員の配置	目標	(1人)	()	()	()	
		実績	1人				
	デジタル教科書・電子黒板等の整備	目標	デジタル教科書用(ソフト・電子黒板導入)	()	()	()	
		実績	デジタル教科書用ソフト・電子黒板導入				
達成状況説明	計画通り、情報教育支援員を1名を小学校に配置した。またICT環境整備で、小学校において電子黒板等のハード面の環境整備と、デジタル教科書のソフトを小中各教科分の整備を行う事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	情報教育支援員の配置1人	目標	()	(1人)	()	()	()
		実績		1人			
	町内小中学校における教育用ソフトの導入率100%	目標	()	(教育用ソフトの導入率100%)	()	()	()
		実績		小学校100% 中学校100%			
	進捗状況説明	情報教育支援員を小学校に配置し、児童のICT機器操作の支援や教師の情報教育に関する支援を行う事ができた。またICTを活用したわかる授業の構築の為に、視覚的効果と思考力を高めるデジタル教科書活用に向けて、ソフトの整備を行えた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(ア) 各学校での情報支援員に対するニーズが増え、支援員1名では小中学校3校の掛け持ち勤務では、教育的効果が薄く、指導内容にも無理がある。</p> <p>(イ) 本町では、視聴覚機器やICT環境整備が不十分で、学習効果の高いデジタル教科書等活用する為のテレビ・パソコン等備品を速やかに整備する必要がある。</p>	<p>(ア) 授業等の支援頻度が高い小学校へは各1名の情報教育支援員の配置が必要である。</p> <p>(イ) デジタル教科書等活用の為のテレビ・パソコン等備品の速やかな整備。 (夏休み明け9月からは授業で活用できるよう手続等を行う)</p>

今後の取り組み方針

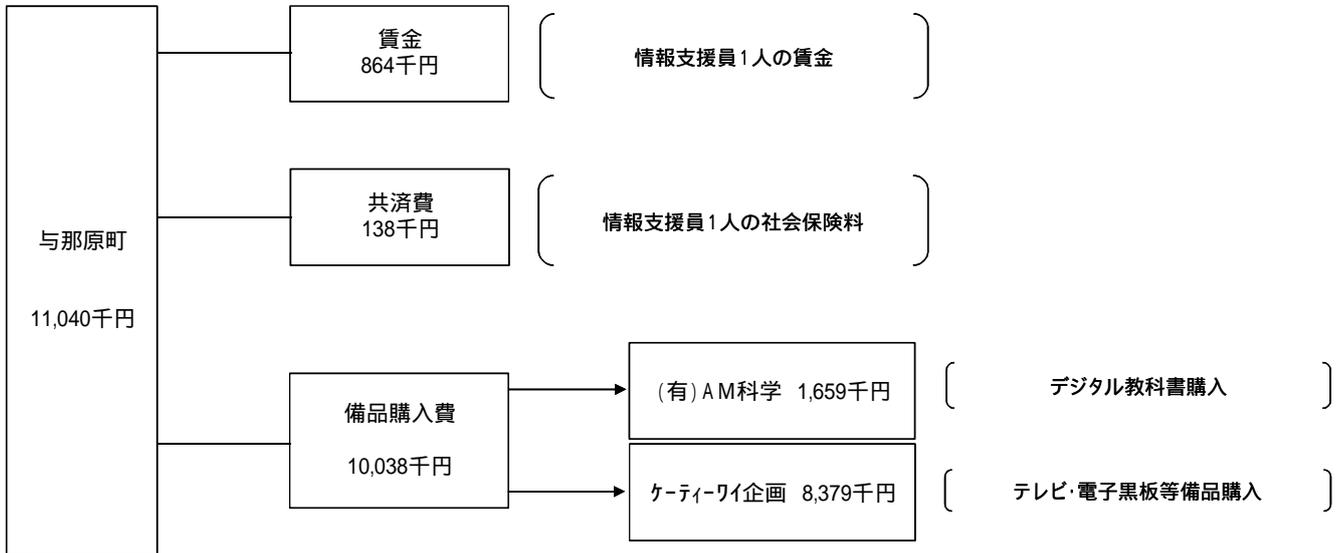
(ア) 小学校各校に情報支援員を配置し、授業での児童生徒の情報教育支援や、教職員へのICT活用の指導、さらに各学校のICT環境の整備を行う。中学校においても定期的(毎週1回1日程度)に情報教育支援員を配置する。

(イ) 夏休み等の長期休業日を活用して、ICTスキルに応じた自主参加による情報支援教室を実施する。

(ウ) 小・中学校の全教室にテレビ・電子黒板等の整備を行い、日常的にICT機器が使える環境を整備し、授業等で効果的活用する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,040	11,040	8,831	2,209	



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>人選については、これまでの経験や実績に基づき採用を行っているので妥当と考える。</p> <p>備品購入費については、指名競争入札により業者選定をおこなっており、事業目的に即した支出となっている。</p> <p>予算規模・費目・用途については、事業目的に合致している。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6	与那原三叉路情報発信大型ビジョン活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	与那原三叉路に大型ビジョン屋外型デジタルサイネージを設置し、地域情報や地域イベント情報を届け、新たな賑わいを創出・演出して観光客誘客を図る。ビジョン活用により商店街活性化も同時に繋げる。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	28,466	-			
		(b)予算現額	28,466	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	27,311			
		A.計(b+d)	28,466	27,311			
	B.執行済額	1,155	24,265				
	うち交付金充当額	924	19,411				
	次年度繰越額	27,311	0				
	執行率(%) (B/A)	4.1%	88.8%				
予算の状況の説明	情報発信大型ビジョンの設置までが目標であったが、設置場所の所有者との調整に時間がかかり、繰越となった。不要額が3,046千円発生しているが、工事費の入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光情報発信大型ビジョンの設置 1箇所	目標	(ビジョンの設置)	()	()	()	
		実績	ビジョンの設置				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	情報発信大型ビジョンの設計の安全性検討、資材単価調査、情報発信大型ビジョン設置施設所有者との調整、タラップの新設工事があり、時間を要したが、情報発信大型ビジョンの設置は完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(24年度)
	観光情報発信大型ビジョンの設置 1箇所	目標	()	(ビジョンの設置)	()	()	(ビジョンの設置)
		実績		ビジョンの設置			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	与那原三叉路の交通量は日量約108,000台の車両が通行する、中南部地域の交通の要衝である。その三叉路を通過する車両等に向け、情報発信大型ビジョンから本町の観光情報や地域情報を発信することにより既存商店街や新たな商業タウンとして躍進する東浜に観光客を呼び込むことが可能になる。今後は、沖縄女子短期大学の移転、マリンタウンペイサイドピスタの分譲等に伴い、益々で那原三叉路の交通量は増えるものと考えられる。本町の観光振興や地域活性化に向けて、新鮮な情報発信をし続け、地域振興のために活用していく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信大型ビジョンで発信する情報等の収集方法・広告等の運用基準が決まっておらず、情報収集が出来ないため発信する情報量が少ない。 情報発信大型ビジョンの機能が十分に活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信大型ビジョンの運用基準については、同様な電光掲示板を設置している自治体を参考に運用基準の詳細を決定する。 情報発信大型ビジョンの取扱い説明書を十分理解するとともに、実際の操作について、納入業者から講習を受ける。

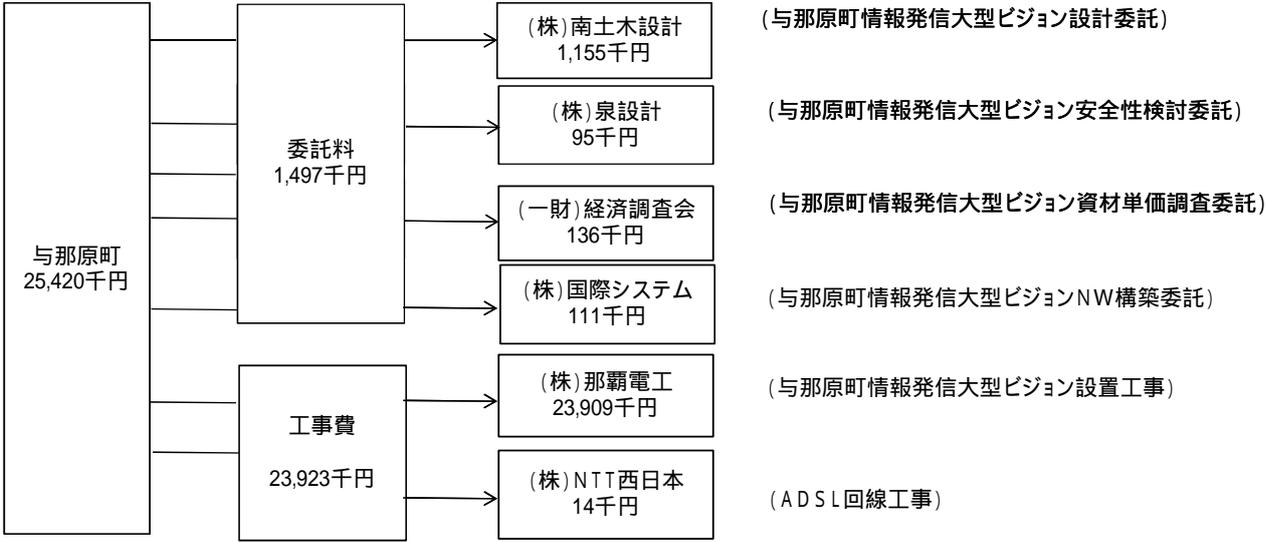
今後の取り組み方針

・今後は、情報発信大型ビジョンの運用詳細を決定し、観光情報や、新鮮な地域情報を積極的に収集し、一元的に集約するとともに発信をし、地域振興に結び付ける。

・広告の募集を行って、維持管理費に係る経費としていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,420	25,420	20,335	5,085	0



資金の用途の流、点検、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○大型ビジョン設計、大型ビジョン設置工事については、指名競争入札によりの契約、それ以外の委託・工事については、見積もりや実績を勘案した随意契約となっており、契約として妥当と考える。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	与那原町観光発信・観光誘致事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(1)	
事業内容	本町の海岸沿いは、昔ながらのリーフが現存しており、風光明媚な景色を創出し観光スポットとして観光客が多く訪れている。そのため、町道に電光掲示板を設置し、広く地元客や観光客に観光案内・観光発信を行い、観光誘致と観光振興強化を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	70,000	0			
		(b)予算現額	70,000	0			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	65,569			
		A.計(b+d)	70,000	65,569			
	B.執行済額	4,431	65,552				
	うち交付金充当額	3,544	52,442				
	次年度繰越額	65,569	0				
	執行率(%) (B/A)	6.3%	100.0%				
予算の状況の説明	・電光掲示板の設計及び資材単価調査に不測の日数を要したため、工事に係る65,569千円を次年度に繰越した。 ・不用額が17千円発生しているが、工事費の入札残による執行額の減である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光案内電光掲示板の設置:2箇所	目標	(2箇所設置)	()	()	()	
		実績	3箇所設置				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・電光掲示板の設計及び工事を行い、当初は電光掲示板2基を予定していたが、観光情報をより多く発信し観光客への周知強化を図るため、電光掲示板を3基設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	観光案内電光掲示板の設置:2箇所	目標	(未設置)	(2箇所設置)	()	()	()
		実績		3箇所設置			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・目標に掲げた電光掲示板2箇所設置だけでなく、観光情報をより周知するため小型電光掲示板1箇所追加設置した。 ・観光情報を発信することにより、観光客がより必要な観光情報を収集できるため観光客の増加が見込まれる。					

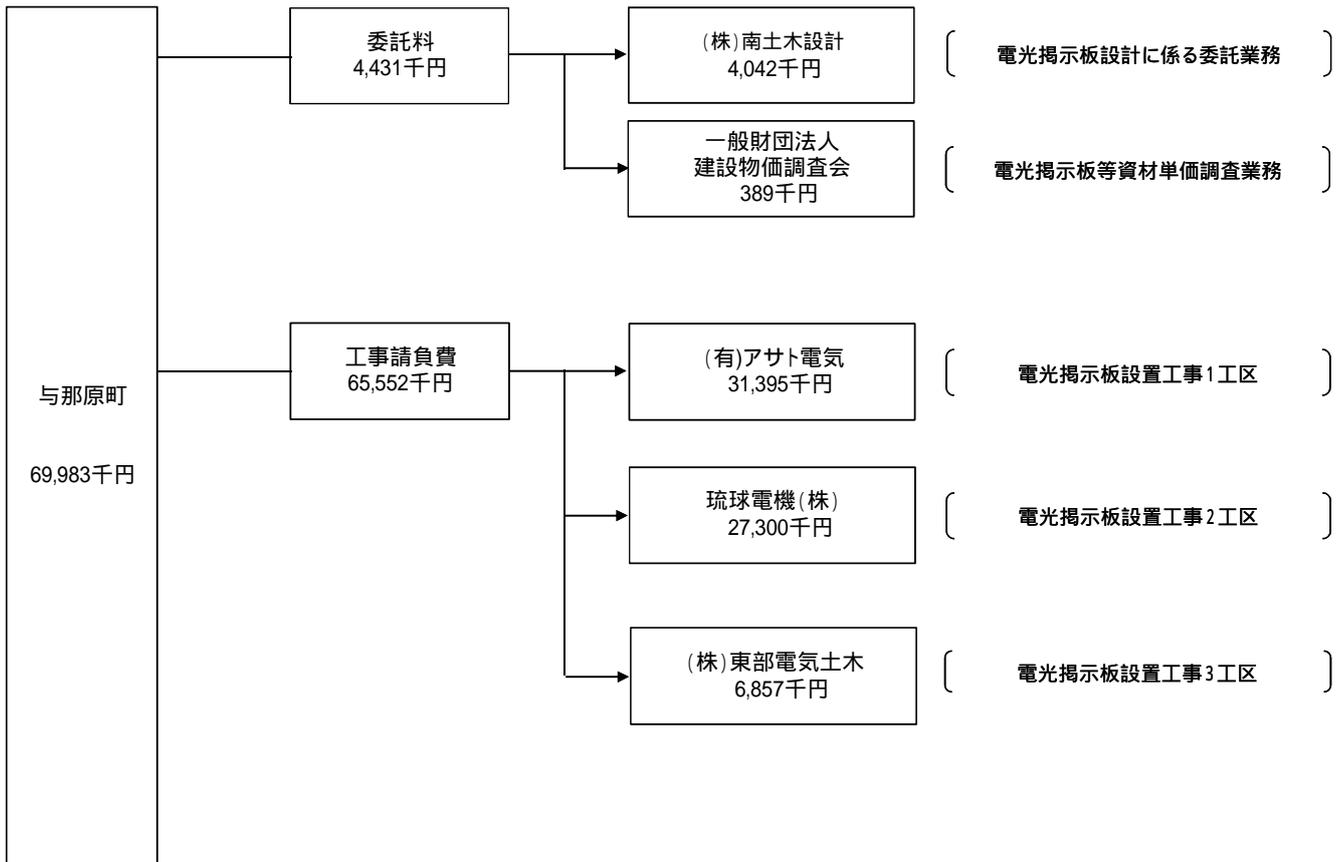
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 運用に際して現在は町内の観光情報の発信を行っているので、町商工会等より電光掲示板を利用してほしいとの要望がある。 県外の観光客が興味を引くような、より沖縄らしい観光情報を発信し、観光客誘致に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 電光掲示板への観光情報のより効率的な利用をはかるため、各種カテゴリーごとの観光(海・山・イベント・パワースポット等)に特化した解りやすい情報を掲示できるように本町各種団体へ周知・連携を図る。 与那原大綱曳等のより魅力ある与那原らしい観光情報の発信に努め、県外から来県している観光客の町への立ち寄り増加、また県内外リピーター観光客が増えるよう、観光客誘致を目指す。

今後の取り組み方針

・各種観光情報を効率よく機能させるため、掲示する観光情報の優先順位や掲示期間・時期等について検討を行い、さらなる効率化を図る。
 ・本町だけでなく、近隣市町村にも呼びかけ本町観光に資する情報を検討して掲示する。
 ・本町の観光計画へ電光掲示板の適切な活用方法について盛り込み、観光客誘致に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
69,983	69,983	55,986	13,997	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 資材単価調査以外の委託料及び工事費は、共に指名競争入札を採用しており妥当であったと考えている。 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	与那原町景観形成強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
	担当部課名	まちづくり課		事業実施(予定)年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	価値創造のまちづくり -10-(1)
事業内容	本町は、沖縄らしい風景を象徴する赤瓦の県内唯一の生産地であることから、赤瓦を利用した与那原町らしいまちづくりを形成し観光振興を図る為の景観計画を策定する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
		(a)当初予算額	7,000	0			
	(b)予算現額	7,000	0				
	(c)増減額(b-a)	0	0				
	(d)繰越額	-	7,000				
	A.計(b+d)	7,000	7,000				
	B.執行済額	0	6,720				
	うち交付金充当額	0	5,376				
	次年度繰越額	7,000	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	96.0%				
予算の状況の説明	上位関連計画である第4次与那原町総合計画及び与那原町都市計画マスタープランの変更による見直しが発生し、平成24年度については全予算繰越となっている。また、不用額が280千円発生しているが、委託費の入札残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	景観計画の策定	目標	(景観計画の策定)	()	()	()	
		実績	景観計画基礎調査				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	平成24年度、平成25年度(H24繰越)について、上位計画を基に、住民アンケート、ワークショップ等を行い、景観計画基礎調査の取りまとめを行った。活動目標を達成する上で住民との合意形成等に時間を要した為、策定まではできていない。平成26年度に景観行政団体への移行、平成27年度に景観計画策定の予定となっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	景観計画の策定	目標	()	(景観計画の策定)	()	()	(景観計画策定)
		実績		景観計画基礎調査			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	平成24年度、平成25年度(H24繰越)については、上位計画の遅れ等もあり繰越となっているが、その間、住民アンケート、ワークショップ等を行い、景観計画基礎調査の取りまとめを行った。また、住民の合意形成等に時間を要し、成果目標については達成できていない。						

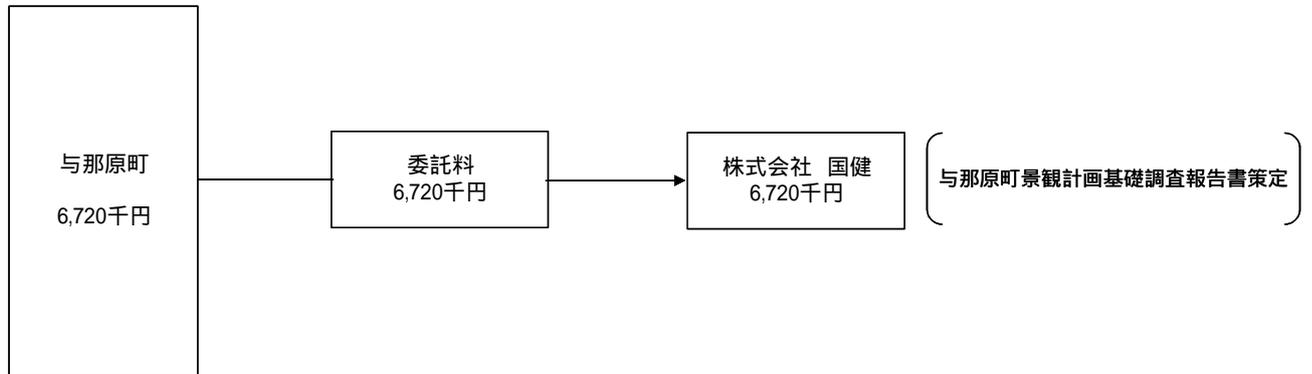
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・景観計画策定にあたっては建築物の制限等が発生し、既存建築物への影響が大きくなることから、今後も住民との合意形成に時間を要すと予測される。その為、住民に対し啓蒙活動を積極的に行う必要がある。	・より効率的に住民の意見を広く集める為、町内住民を対象とした景観まちづくりサポーターを広く募集し、景観に対する勉強会等を開催し、合意形成をはかる。 また、住民に対する意識向上の為、広報等を活用し、景観計画の概要を広くPRしていく必要がある。

今後の取り組み方針

平成24年度、平成25年度(H24繰越)については、上位計画の遅れ等もあり繰越となっているが、その間、住民アンケート、ワークショップ等を行い、景観計画基礎調査の取りまとめを行った。今後、これまでとりまとめてきた景観基礎調査を基に、平成26年度において住民への説明会等を開催し、合意形成を図ると同時に、庁内においては、庁内策定会議、審議会にて他関連事業との整合性を図り、景観計画案の策定、景観行政団体への移行をする。その上で、平成27年度には景観計画を策定する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,720	6,720	5,376	1,344	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争型入札により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-	地場産業振興支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-ア	
担当部課名	企画観光課(旧産業振興課)	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	ものづくり産業の振興と地域ブランドの形成 -1-(7)	
事業内容	県内唯一の赤瓦生産地として赤瓦原材料(クチャ)おの埋蔵量調査を行い、需要と供給を予測して今後の地場産業振興と沖縄県全体の赤瓦街並み形成による観光振興を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		31,500	0			
			31,500	0			
			0	0			
			-	31,500			
			31,500	31,500			
	B.執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		0	28,136			
			0	22,508			
			31,500	0			
			0.0%	89.3%			
予算の状況の説明	不用額3,364千円が生じているが、これは入札残によるものである。 繰越の理由としては、採取したクチャが赤瓦の原材料として適しているか確認する必要があるが、24年度はクチャの分析機関が業務量の関係で受託できなかったため。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	赤瓦原料(クチャ)埋蔵量調査箇所数5か所	目標	(調査箇所5か所)	()	()	()	
		実績	調査箇所7か所				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	調査箇所については、自治体等の公共事業予定地を調査したところ、7か所あったため、予定より多めの調査箇所とした。(事業年度がそれぞれ違うため、安定的な確保を目的として、調査箇所を追加した) 赤瓦組合に過去のクチャ使用料を聞き取り調査したところ、今後想定される、使用料を十分に満たす埋蔵量が確認できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(24年度)
	赤瓦原料(クチャ)埋蔵量調査箇所数5か所	目標	()	(調査箇所5か所)	()	()	(調査箇所5か所)
		実績		調査箇所7か所			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	予定箇所より2か所追加し、今後安定的な赤瓦製造が可能になるような埋蔵量が確認できた。本町の別事業で観光交流施設で沖縄赤瓦を大量に使用する予定があるが、それに対応することも可能であり、本町が誘致している大型マイス施設が決定した場合で沖縄赤瓦を使用するとしても充分対応できると思われる。 また、町単独費用により実施している、赤瓦奨励金を広くPRして町内の赤瓦需要拡大に努める。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	今回の調査により今後想定される需要を満たす埋蔵量があることが分かった。しかし、埋蔵量に対してヤードが足りていない。	多くの埋蔵量があることが分かったが、その埋蔵量に応じたヤード〔資材置き場〕が足りていないので、その確保が必要となっている。
今後の取り組み方針		
新たなヤードの確保に取り組む。 その事により、今後赤瓦の需要拡大による生産量増加に対応する体制ができる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	28,136	28,136	22,508	5,628	
<pre> graph LR A[与那原町 28,136千円] --> B[委託料 28,136千円] B --> C["(株)アジア測量設計 28,136千円"] </pre> <p style="text-align: right;">クチャ(赤瓦原材料)の埋蔵量調査にかかる委託料</p>					

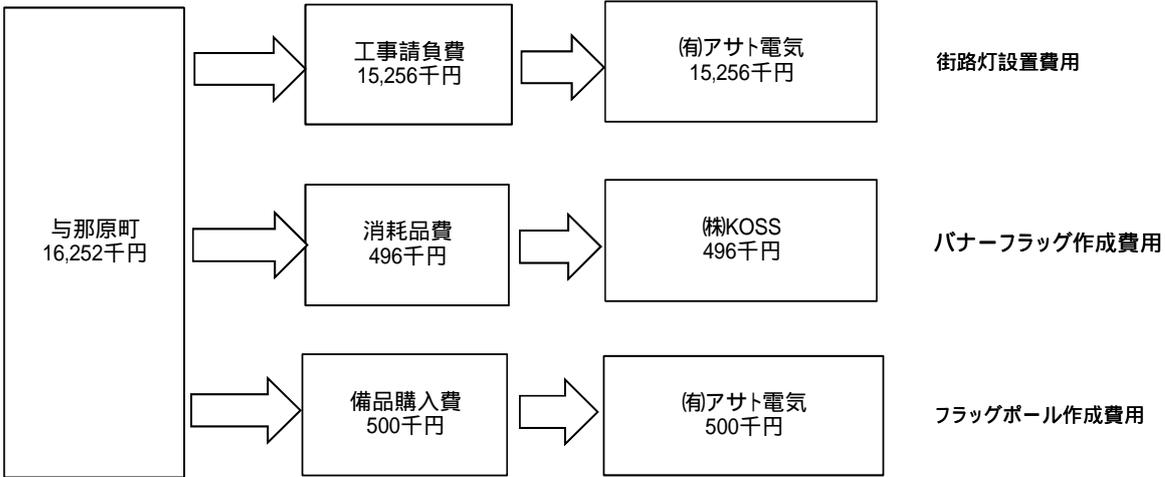
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定については指名競争入札により決定しており、妥当であるとする。また予算規模・使途共に適切である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-	商工業振興支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ	
担当部課名	企画観光課(旧産業振興課)	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を支える中小企業等の振興 -1-(7)	
事業内容	商店街をきらめきのある光で魅力あるにぎわいの場を演出し、商店街及び町の観光イメージアップを図り商工観光振興につなげていく。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他(工事費・備品購入費・事務消耗品費)		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,000	0			
		(b)予算現額	18,000	0			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	17,000			
		A.計(b+d)	18,000	17,000			
	B.執行済額	493	15,759				
	うち交付金充当額	394	12,607				
	次年度繰越額	17,000	0				
	執行率(%) (B/A)	2.7%	92.7%				
予算の状況の説明	不用額が747,575円であるが、これは工事費の入札残である。繰越事由については地域事業者から施設に対する要望事項があり、その調整に不測の日数を要したため。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	商店街街路灯設置数 20基	目標	(街路灯設置20基)	()	()	()	
		実績	街路灯設置16基				
	目標	()	()	()	()		
実績							
達成状況説明	当初計画では街路灯20基設置の予定であったが、20基での照度分布図を確認したところ、既存の車道灯の照度分布を併せると、20基は必要なかったため、既存車道灯をカバーするのに必要最低限の16基に変更した。また設置前は歩道が暗かったため歩行者が少なかったが、設置により歩行者の安全確保が可能になり、徐々に歩行者の増加につながっている。またこれまでは商店街の催し(ちゃんぶる~市等)は立て看板のみで周知するには目立たなかったが、フラッグの掲示によりPR効果がアップした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(24年度)	
	商店街街路灯設置20基	目標	()	(街路灯設置20基)	()	()	(街路灯設置20基)
		実績		街路灯設置16基			
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	街路灯としては、敷設道路で定期的にウォーキングをしている住民からも安心できるとの意見もあり、また今事業で作成したフラッグについても通り沿いの店舗から好評を得ている。それに伴い商店街の利用率を向上させ、空き店舗の解消につなげていく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	街路灯の設置で歩行者の夜間の安全は確保できたため、通行量は増えたが、さらなる観光振興のためのフラッグの設置がまだ広く周知されていないため、広報等を活用して広く周知していく必要がある。	フラッグの掲示を行政のみの使用ではなく、規程等を作成して町内事業所や町外からの活用も促進し、広く商工観光振興につなげていく必要がある。
今後の取り組み方針		
現在は「えびず通り商店街」「与那原大綱曳まつり」「ちゃんぶる～市軽便市」の3種類のフラッグのみの作成であるが、アーケード等通り名を通知する手段がなかったため、通り名の周知に大いに役だっている。しかし行政・商工会行事のみのイベントだけでなく、町内企業等も活用できるような規程等を作成してさらなる商工観光振興発展につなげていく必要がある。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,252	16,252	13,001	3,251	



資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	工事請負費については入札により決定し、バナーフラッグ、フラッグポールについても3者見積りによる随意契約を行っており、支出先の選定方法については妥当と思われる。また、費目・使途についても適正である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10 -	人工的ひじき生息環境(ひじき畑)の整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	農水環境安全課(旧産業振興課)	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興」 -1-(6)	
事業内容	ひじきの藻場の保全、増殖技術の研究、人工的にひじきの生息環境を整えて収穫増量につなげていく取組みの支援を行う。 ・ひじき増殖対策：ひじきの生育が確認できないエリアでの岩礁洗浄、生体移植、モニタリング調査等の増殖対策の実施 ・漁場整備、岩礁帯の整備を図り、環境復元効果のある環境活性コンクリートを活用した整備を実施						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	12,000	0			
		(b)予算現額	12,000	0			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	12,000			
		A.計(b+d)	12,000	12,000			
	B.執行済額	0	6,763				
	うち交付金充当額	0	5,410				
	次年度繰越額	12,000	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	56.4%				
予算の状況の説明	繰越理由としては、工事実施にあたり、漁業者より施行時期に関する要望があり、その調整に時間を要したため、繰越することとなった。 執行に当たっては、当初計画していたひじきの藻場乗り入れ道路については、海の環境保全と水域占用等の調整により計画変更を行ったため執行額に差が生じている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ひじき藻場整備	目標	(1,290㎡)	()	()	()	
		実績	45㎡				
	ひじき藻場乗り入れ道路整備	目標	(2,000㎡)	()	()	()	
実績		152㎡					
達成状況説明	事業計画では、藻場付近の岩礁を破碎し、水面に接する藻場を広げる整備を広範囲にひじきの藻場整備と乗り入れ道路整備を実施する予定であったが、地域環境や専門家との検討した結果、公有水面の岩礁を破碎し事業を実施することに対し環境に与える影響等を踏まえ計画規模の変更となった。 藻場整備についてはジェッターによる岩礁清掃5地点、乗り入れ道路については、漁港施設区域内水域に限って実施を行うとの変更を行い実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(30年度)
	ひじき収穫量 H23年度:56t H24年度:60t	目標	(56t)	(60t)	()	()	(60t)
		実績		54t			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	基準年度においては、与那原町でのひじきの水揚は56tあり年々収穫量が減少している状況である。平成22年度には、水揚量が60tを超えていたこともあり、事業実施で、60tという目標を立てているが、藻場の整備をについては、継続的に研修・整備を実施し、収穫量が改善されるのは次年度以降になる。						

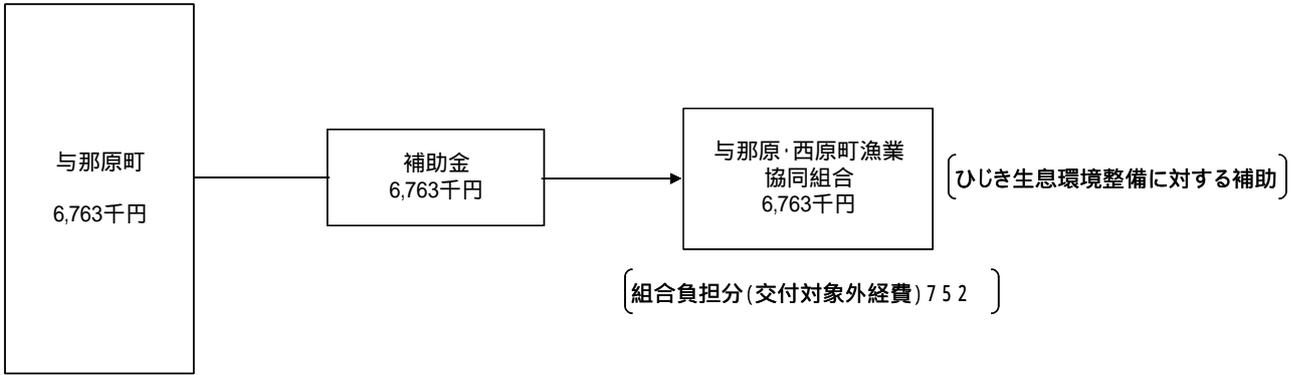
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・ひじきの藻場整備については、事業年度を初年度とし、収穫量の増減がわかるのが、次年度以降になるので、継続して検証することが必要。	・ひじきの藻場の育成については、沖縄県海洋技術センターとも連携を取り、藻場の環境整備のため岩礁をジェッターで洗浄を行い種苗の移植、モニタリングを実施していかないといけない。
	・ひじきの乗り入れ道路整備については、当初予定より環境への配慮や岩礁工事等の調整に時間を要した。計画変更をする結果になったが、海的环境を保全しながらひじきの藻場の育成と環境教育の場となるよう活用する。	

今後の取り組み方針

平成26年度は、25年度に実施した地点のモニタリングを定期的を実施し、ひじき収穫後の夏場から岩礁の洗浄作業等を行う体制を整える。ひじきの藻場育成については、結果がすぐに反映される事業ではないため、ひじきの漁を監督する漁協において継続的な活動を実施していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,515	6,763	5,410	1,353	752



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	県内で唯一天然のひじきが収穫できる場所で、与那原町の特産品でもあるひじきの生息環境の保全を行うにあたり、当初の見積もりは大きかったが、実施した事業の規模や支出内容は適正であった。 事業実施にあたり、ひじきの藻場を管理する漁協からの要望を踏まえ、受益者負担も行うことで適正に事業を行った。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10 -	水産加工品ブランド定着化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
担当部課名	農水環境安全課(旧産業振興課)	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興」 - 1 - (6)	
事業内容	特産品のひじきや、水揚量の多いソデイカなどを活かした付加価値の高いブランド加工品開発により、漁獲・加工・販売の6次産業化の支援を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,500	0			
		(b)予算現額	4,500	0			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	4,500			
		A.計(b+d)	4,500	4,500			
	B.執行済額	0	2,773				
	うち交付金充当額	0	2,218				
	次年度繰越額	4,500	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	61.6%				
予算の状況の説明	繰越理由としては、加工品開発にあたり、有識者から商品化につながるよう市場調査を併せて実施するよう意見があり、その調整等に日数を要したため、繰り越すこととなった。 執行に当たっては、試作品の販売等の実施についての計画変更を行ったため執行額に差が生じている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ブランド加工品試作品の製作	目標	(5品)	()	()	()	
		実績	4品				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	事業計画では、マグロも含めた5品となっていたが、本町で主に水揚される水産物の種類等を勘案し、委託業務を実施する際に4品(ひじき、ソデイカ、トビイカ、シイラ)へ変更し、委託発注を行った。 事業でできた商品は、「ひじきじゅーレーの素」「セイイカ(ソデイカ)燻製」「トビイカの一夜干し」「マンビカー(シイラ)の煮つけ」の4品						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(30年度)
	ブランド加工品試作品の製作	目標	(1品)	(5品)	()	()	(5品)
		実績		4品			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	基準年度においては、与那原町での水産加工品は、ひじきの佃煮の1品であったが、今回の事業で4品の新たな特産品が開発された。試作品の味は評判もよく商品化しても与那原特産として売り出せるものができた。しかし、実用化に向けては、量産体制と生産計画等クリアすべき課題もあり、漁協及び販売者とも調整しながら商品販売に向けた取り組みを実施していきたい。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本町には、沖縄で唯一の天然ひじきの産地であるが、町を代表するような商品・加工品がないため、本町で水揚げされる水産物を活用し、付加価値の高いブランド加工品を開発を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> 店頭での販売がしやすいような商品供給体制を検討し、効率の良い年間の販売計画を検討する必要がある。 消費者のニーズに合う価格の実現に向けた製造計画と材料の確保等の調整が必要。
	事業課題として <ul style="list-style-type: none"> 水揚げされる水産物の時期や水揚量の検討について十分ではなく、計画段階から有識者の意見を取り入れ事業を進める必要があった。 4品の商品(試作品)を作ったが、販売価格や材料確保についての対策が十分ではなかった。 	
今後の取り組み方針		
平成26年度は、漁協と連携し商品の保存期限や賞味期限等の検証を含めた実用化に向けた検討を行いながら、水産物の水揚げ時期に合わせた販売の準備体制を整え、商品化に向けた調整を行う。 平成27年度・28年度で販売体制を整えていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	2,774	2,774	2,218	556	0
<pre> graph LR A[与那原町 2,774千円] --> B[委託料 2,774千円] B --> C[与那原・西原町漁業 協同組合 2,774千円] C --- D["(特産品開発に係る委託業)"] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	事業費目・使途については、事業達成の観点からも必要であり、額の確定時において、支出等に関する調書により正確かつ適正であった。 委託事業については、地方自治法施行令167条の2第7号により「時価に比して著しく有利な価格で契約を締結する見込みがある」とし、随意契約を行った。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那原町					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11	与那原町海拔及び津波避難ビル表示整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	農水環境安全課 (申請時:総務課)	事業実施(予定)年度	平成24~25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	社会リスクセーフティネットの確立 -10-(2)	
事業内容	東日本大震災の教訓を踏まえ、町民及び観光客の減災対策として、町内の電柱や津波避難施設へ海拔表示等を設置する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
		(a)当初予算額	2,211	0			
	(b)予算現額	2,211	0				
	(c)増減額(b-a)	0	0				
	(d)繰越額	-	2,211				
	A.計(b+d)	2,211	2,211				
	B.執行済額	0	2,098				
	うち交付金充当額	0	1,678				
	次年度繰越額	2,211	0				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	94.9%				
予算の状況の説明	津波避難ビル標識及び海拔表示板設置にあたりビル所有者の承諾、設置施設((株)沖縄電力、(株)NTT柱、国道県道道路管理者)との占有協議に不測の日数を要し、全額繰越とした。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
	海拔表示板の設置	目標	(65箇所)	()	()	()	
		実績	67箇所				
	津波避難ビル表示板の設置	目標	(19箇所)	()	()	()	
		実績	19箇所				
	達成状況説明	海拔表示板及び津波避難ビル表示板制作は、沖縄県の海拔表示等のガイドラインを基に外国人が認識できるよう英語・中国語・韓国語を併記し、広角プリズム型反射シートを採用し、耐候性に優れたスクリーン印刷(フッ素加工)を施し、夜間における視認性と屋外耐候性を確保した。また、海拔表示板は国道及び県道道路標識、沖縄電力柱、NTT柱に設置し、海拔の低い地域から高い地域へ向かう歩行者・通行車両からの見易さを考慮し設置した。海拔表示板及び津波避難ビル表示板ともに活動指標を達成している。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	海拔表示板の設置	目標	(0箇所)	(65箇所)	()	()	(187箇所)
		実績		67箇所			
	津波避難ビル表示板の設置	目標	(0箇所)	(19箇所)	()	()	()
		実績		19箇所			
	進捗状況説明	平成24年度で海拔表示板(67箇所)および津波避難ビル表示(19箇所)の設置により、住民及び観光客等の避難誘導対策の強化が図られた。一方、平成26年3月中央防災会議において、本町は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定され、これまで以上に家庭や個人、不特定多数が出入りする施設等に対する避難対策が求められている。そのため、町内の主要施設や道路標識への海拔表示板の設置について継続して取り組む必要がある。					

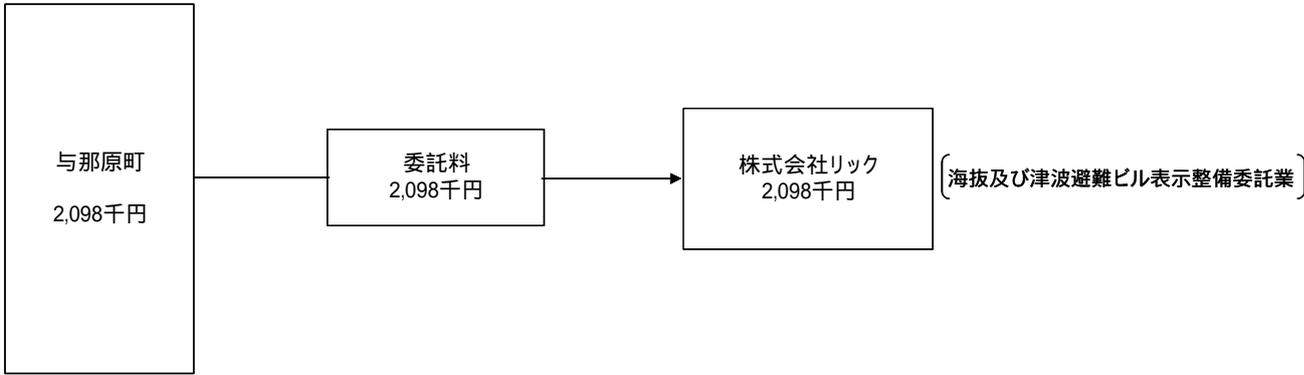
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>[現状分析]</p> <p>平成24年度事業により、海拔表示板(67箇所)及び津波避難ビル(19箇所)の設置を行った。しかしながら、平成26年3月、中央防災会議において本町は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定され、これまで以上に家庭や個人、不特定多数が出入りする施設等に対する避難対策が求められている。また、平成26年6月、沖縄県津波避難困難地域が公表され、本町東浜地区において更なる津波避難ビル指定および効果的な避難対象区域外への避難誘導対策が必要と考える。</p>	<p>[効率化・改善策の検証]</p> <p>新たな津波避難ビル指定に当たっては、沖縄県津波被害想定調査結果(平成25年3月)に基づき、建築物の高さはその地点における浸水想定が、当該ビルの津波浸水階の2階以上のフロアを確保し得るものを抽出する。抽出された建築物を対象に、「東日本大震災における津波による建築被害を踏まえた津波避難ビル等の構造上の要件に係る暫定指針」(国土交通省)に基づく調査を実施する。</p> <p>また、海拔表示板の追加設置に加え、避難対象区域外への導線上に特定の行動を円滑に誘導又は禁止するサインを町内適所に配置する。その際、日夜を問わずに避難場所を誘導できるよう、蓄電素材やソーラー電源を使用し、一時避難場所、広域避難場所の他、公共施設等を表記する。平常時には観光誘導として機能する総合的なサインシステムを構築する。</p>

今後の取り組み方針

平成26年度以降についても、課題解決のため、海拔表示板の追加設置、安全・効果的な津波避難ビルの指定(津波避難困難地域)および避難誘導総合サイン整備に向けた取り組みを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,098	2,098	1,678	420	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は与那原町契約規則に則り指名競争入札により選定しており、妥当である。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について随時確認しており、適正である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	